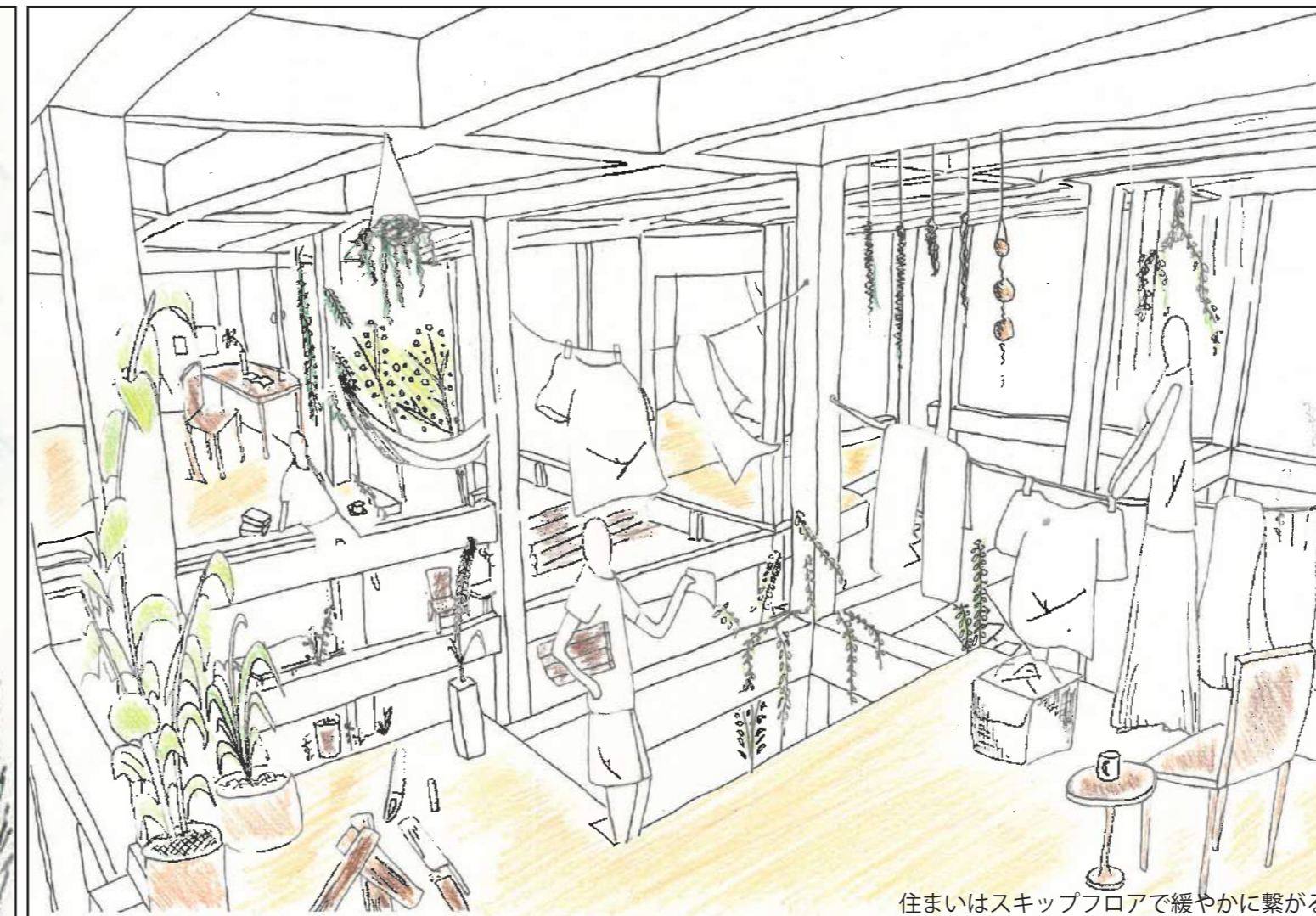


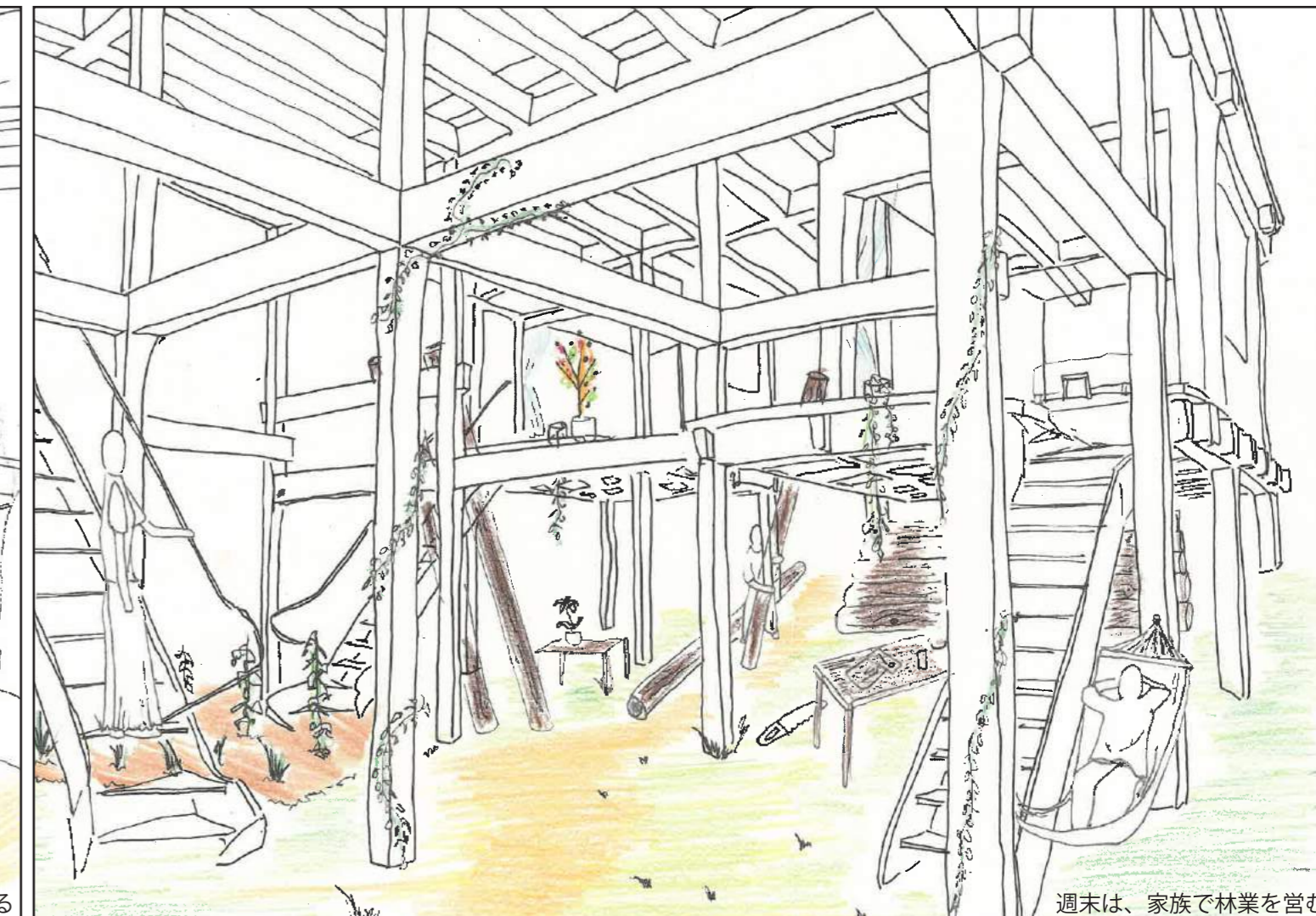


# りん 林とした住まいの提案

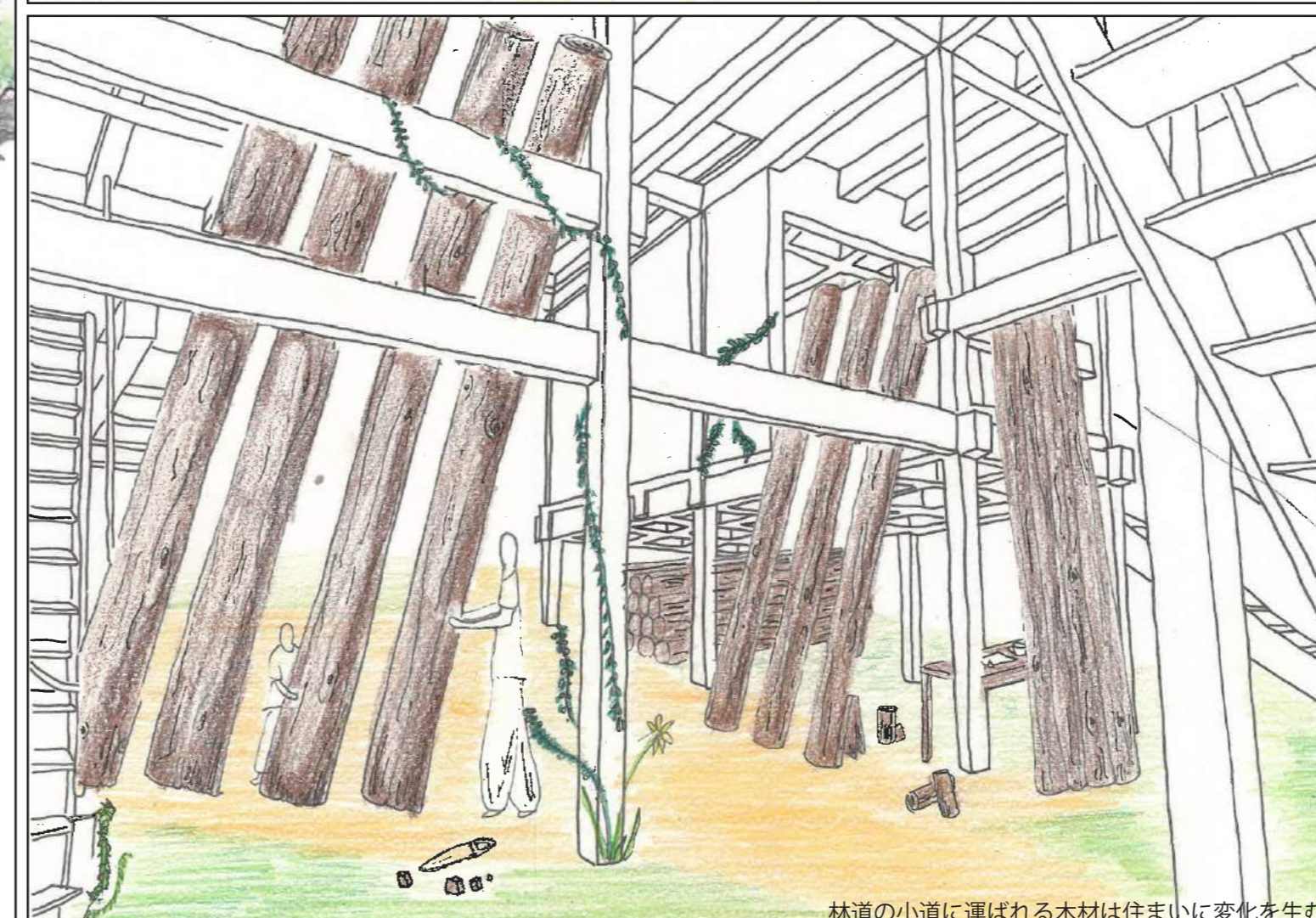
- 自伐型林業が作る新たな木の文化と住まい -



住まいはスキップフロアで緩やかに繋がる



週末は、家族で林業を営む



林道の小道に運ばれる木材は住まいに変化を生む



みんなのリビングでは1階に住まいが溢れ出す

### 01 京都府と森林

京都府の総土地面積に占める森林の割合は74.3%と全国平均の66.5%を上回っており、**民有林**の割合も全国平均に比べてかなり高い。また、民有林の年齢別構成は人工林では10階級以上の**利用期**に達した面積は68%で、10年後には84%に及ぶ。このような現状を踏まえて、成熟した森林資源の**伐採・利用**が推進されている。一方で、今後は森林の**間伐・保育**の面における適正な実施・活用が課題となっている。

□森林面積

□年齢別構成

■人工林 ■天然林

35万ha ↓

■人工林 ■天然林

淀川上流地域(森林率71.1%)  
由良川地域(森林率77.3%)  
京都府総計(森林率74.3%)

### 02 自伐型林業

自伐型林業とは、採算性と環境保全を両立する**持続的森林経営**である。国土の7割を占める山林を活用する「**地方創生の鍵**」として期待され、京都府では和束町において自治体規模でその取り組みがなされている。

□自伐型林業5つのメリット

- 幅広い**就労**機会
- 環境保全**型林業
- 択伐施策で長期的な**森林経営**を展開
- 自家伐採と小規模機械で**低コスト**
- 低い初期投資**費用

□新たな木の文化

現状、以下のようなサイクルが作られているが、自伐型林業を新たな**木の文化**として捉えた上で林業と生活が一体となった林住近接型の住まいがあっても良いのではと考える。

### 03 林業と共にある住まい

以上を踏まえ本提案では、住まいに**自伐型林業**(新たな木の文化)を引き込むことで**民有林**を活かす新たな住まいを提案する。

□ダイアグラム

民有林に住まいを添わず → 住まいに林業を引き込む

□林業と住まいの循環

活用 → 植林 → 製材加工 → 間伐・主伐 → 収穫

### 04 敷地と家族

□敷地

敷地は、京都北山の麓の**傾斜地**である。周辺は使われていない**民有林**と京都独特の木密住宅街に囲まれている。

敷地面積: 約60坪  
建築面積: 約32坪  
階数: 2階建て  
階高: 約2.7m  
最高高さ: 8.1m  
構造: 木造

□家族

父(38): 自伐型林業家に転身  
母(36): 農作業に興味がある  
兄(11): 木工が得意  
妹(5): 動物好き

### 06 平面計画

□林業の小道

敷地後ろの民有林から切り出したスギやヒノキは林業の小道を通過して乾燥・加工・焼却の流れで住まいや林業に利用される。

□住まいの動線

分棟形式の住まいは家族のプライバシーを確保しながらお互いの活動や林業の変化を日々の生活で感じることが出来る。

木材の作る隙間は昆虫たちのすみかにもなる  
たけかけた木々は住まいを少しだけ伸び縮みさせる  
地域の人と野菜作りを通して同じ汗を流す  
林業の小道と住まいの動線が集まる中心部には、家の色々な物が集まる溜まり場  
皆で育てる苗木はまるで子供を育てるかのよう  
1階のかまどの熱は住まいの熱循環を効率良く行う  
セットバックにより地域との緩衝帯に

木材切り出し場  
木材置き場  
木材乾燥エリア  
エディブルガーデン  
みんなのキッチン  
みんなのリビング

子供の遊び場  
子供の家  
両親の家  
家族の家

世の中へ

1F 平面図 S=1/100  
2F 平面図 S=1/100

### 05 断面計画

東側立面図 S=1/100

南側立面図 S=1/100

A-A' 断面図 S=1/100

0 1 2 5(m)